



「こんにちは 市長です」

5月20日号

緊急事態宣言が31日まで延長になった。「新しい生活様式」の具体例も示された。わいわいがやがやはやめよう、人と人がくっつかず、歌や応援は十分な距離をとってなどなど、口角泡を飛ばして議論などはもっての外であるということだ。幸い、個人の衛生意識は高くなっていて手洗いや着替えなどは習慣になっている。高校の時、校長先生がこう言った。「パンツは洗濯したものをはきなさい」これ以外、先生のお言葉は覚えていない。時々裏返してはいていたので痛いところを突かれた感があった。

新型コロナは社会を変えた。事業規模117兆円もの補正予算を組まなくては国民生活を維持できないほどである。その中の一つ、一律10万円の給付金を国から任された。すでに申請書類は郵送されたので至急送り返していただき5月下旬から振り込みを開始する。また、「市独自の支援策」をつくった。いずれ国から有利な融資策が出るが、その前4月には3千万円の運転資金、30億円を用意した。5月になって「不足してしまう。あと30億円を」という要望があった。即刻、追加を決めた。スピードを評価してもらった。従業員5人以下の事業者へ10万円の家賃補助、2億円。18歳以下のお子さんを持つご家庭へ1万円分の食事券、約2億4千万円。小中学生へ1人2kgの米の配布。新たな奨学金のあり方の検討もしている。テレビから連日のように飲食店の悲痛な叫びが報道されている。人々の暮らしと命を守る主体は政府にあるが一つの自治体としてできることを最大限実行に移していきたい。

「新しい生活様式」の発表の翌日、静かな役所内をひと回りしてみた。机はずらっと並んでいる。2m間隔はまったく無理。学校の教室をどうするか、大規模校は学区の再編も必要になるのだろうか。1~2m空けて授業ができるか。文科省はどんな指導をするのだろうか？